

平成 28 年度第 3 回「大垣市多文化共生推進会議」会議録

平成 28 年 9 月 27 日（火）午後 1 時 30 分から、平成 28 年度第 3 回大垣市多文化共生推進会議を、市役所 3 階第 2 委員会室において開催した。

その内容は、次のとおりである。

1 議 題

- 市民アンケートの結果報告について
- 大垣市多文化共生推進計画改定の中間案について

2 参加者

(1) 出席委員（10 人）

杉山 一也	岐阜経済大学経済学部准教授
臼井 千里	世界青年友の会常務理事兼事務局長
川瀬 充弘	学校法人H I R O学園理事長兼学園長
岡本 幸	C A P C O代表
社本 久夫	公益財団法人大垣国際交流協会常務理事兼事務局長
神谷 利行	大垣市連合自治会連絡協議会副会長
島倉 俊介	ハローワーク大垣外国人労働者専門官
立川 健之	大垣市教育委員会学校教育課長
尾崎 和美	公募市民
濱田 早苗	公募市民
松原 玉林	公募市民

(2) 欠席委員（1 人）

島倉 俊介	ハローワーク大垣外国人労働者専門官
-------	-------------------

(3) 事務局（4 人）

原 善孝	大垣市かがやきライフ推進部長
高木 俊介	大垣市まちづくり推進課長
桐山 知弘	大垣市まちづくり推進課多文化共生推進グループ主幹
松原 拓位	大垣市まちづくり推進課多文化共生推進グループ主事

3 会議の概要

発言者	内 容
杉 山 委 員 長	・ 議題の1「市民アンケートの結果報告について」事務局から説明をお願いしたい。
桐 山 主 幹	※ 議題の1について説明
臼井副委員長	・ アンケートは多言語化されているのか。
桐 山 主 幹	・ ポルトガル語、中国語、英語、日本語で対応している。
臼井副委員長	・ 特に外国人大人向けアンケートの回収率が悪いが、何か対策はしているか。
桐 山 主 幹	・ アンケート対象者全員に礼状兼催促状を送り、回答者にはお礼をするとともに、未回答者に回答を催促している。最新の数字では外国人大人の回収率は18%になっている。
尾 崎 委 員	・ 多言語化していない言語を母語としている外国人には何語で対応したのか。また、そういった外国人から回答があったのか。
桐 山 主 幹	・ 翻訳できない言語が母語の場合は、英語と日本語を同封している。 ・ この対応でベトナム、タイ、ネパールの方から回答があった。
川 瀬 委 員	・ アンケート回答の中から、不就学児童がいることや、外国人児童のいじめについて回答があったので、関係機関に情報提供してはどうか。
杉 山 委 員 長	・ 教育委員会にアンケートの結果を伝えているのか。
高 木 課 長	・ 教育以外にもアンケートで様々な分野の課題が把握できたので、市役所内の組織である多文化共生推進本部で情報提供をするなど対応を検討したい。
尾 崎 委 員	・ 外国人子ども向けアンケートの間 12「学校から帰った後、何をしてお過ごしますか」の結果で、「スマートフォン、パソコンまたはゲームなど」が32.7%で非常に高い。 ・ スマートフォンなどで時間を使うより、放課後に勉強したり、友達と遊んだりした方が有意義であると思うので、外国人の子どもが放課後に集まって過ごすことができるサロンのようなものがあると良いと思う。
原 部 長	・ 市では放課後支援教室を行っており、今年度は会場を多目的イベントハウスだけでなく、荒崎地区で分室を設け、より多くの外国人の子どもを支援できるようにした。

発言者	内 容
高 木 課 長	・ 放課後支援教室については、岡本委員が中心となって活動されているので、現況を伺いたい。
岡 本 委 員	・ 現在は、小中学生合わせて約 40 人が参加している。 ・ 小学生は日本人の子どもと学習の遅れがさほど大きくないため、支援をすれば、追いつくことができるが、中学生になると学力の差を埋めることが難しい。
原 部 長	・ 市では多分野にわたり、市民アンケートを行っているが、以前よりも回収率が悪くなっているようだ。 ・ アンケートでも在留期間が長い外国人が増えている結果だったが、日本の生活が長い方の回答が多いと意見が偏ってしまうので、短い方はどう考えているのか、そういった声を拾う必要もある。
臼井副委員長	・ アンケートの回収率があまりよくないので、来庁した外国人市民にもアンケートを実施してはどうか。 ・ 回答してくれない外国人は書いてあることがわからないと思われるが、そのような外国人の意見も施策に反映させたい。 ・ 外国人も行政の施策に参画するには、ある程度の日本語能力が必要である。 ・ 進学するに伴い、使用する日本語のレベルが高くなるため、外国人に日本語を習得してもらえるような教育的施策を検討する必要がある。
立 川 委 員	・ 外国人大人向けアンケートで問 22「子どもの教育で困っていることや心配なことは何ですか」の結果で、子どもが学校でいじめられると回答したのが 23.7%（18 件）あった。 ・ 問 22 が心配なことを問う形であるため、「実際にはいじめられていないが心配だ」という件数を含んでいると思われる。 ・ 大垣市では初期指導教室や日本語教室など日本語教育施策が充実しているため、外国人子ども向けの問 9「学校の国語や算数（数学）の授業がよくわかりますか」の結果で、よくわかると答えた割合が日本人の子どもより上回っている。
岡 本 委 員	・ 問 22 の結果どおり、放課後支援教室でも、来日したばかりの外国人保護者は子どもがいじめられないかどうかが心配していることが多い。

発言者	内 容
岡 本 委 員	・ 来日直後の外国人は日常会話もできないため、言葉によるトラブルも多いが、3年ほど日本で生活すれば、そういったトラブルも少なくなってくる。
臼井副委員長	・ 国際交流協会のイベントは、何人ほど留学生が参加しているのか。 ・ 以前、岐阜大学の運動会には、多くの留学生が参加していた事例もあった。
社 本 委 員	・ 十万石まつりなどのイベントにおける留学生の参加率は把握していない。 ・ 日本語教室の受講者や、放課後支援教室に参加している児童の保護者に向けて、イベントの周知を行っているため、そのつながりで参加している方が多い。
神 谷 委 員	・ 荒崎地区では盆踊りや防災訓練を行っているが、外国人の子どもの参加率が高いものの、親の参加率が低い。学校でつながりを持っている子どもの方が地域社会への参加が積極的である。
杉 山 委 員 長	・ 議題の2「大垣市多文化共生推進計画改定の中間案について」事務局から説明をお願いしたい。
桐 山 主 幹	※ 議題の2について説明
社 本 委 員	・ アンケートの集計によって今後も内容が変わるのであれば、その結果がまとまった後に中身を精査した方がいいのではないかな。
杉 山 委 員 長	・ その他意見はあるか。
臼井副委員長	・ 外国人の子どもについて、学校現場ではどのようないじめ問題があるのか。
松 原 委 員	・ 文化や言葉の違いで誤解が生じ、日本人と外国人の子どもの間でトラブルが発生することもあるが、大きな問題はあまり聞かない。
杉 山 委 員 長	・ 意見が出尽くしたようなので、これをもって平成 28 年度第 3 回大垣市多文化共生推進会議を終了する。

終了時刻：15：00